

政策の実現（提言）

〔メガソーラー・外来種駆除について〕

岡山環境カウンセラー協会

会長 藤本 晴男

自己紹介

昭和55年から自然環境分野に関わる

平成 4年から地球温暖化防止活動を始める

平成15年 環境カウンセラー

平成20年 地球環境分野で初めて褒章を受章

アセス(株)代表取締役

1. 地方の現状と課題

社会・経済の変化と現状（疲弊する地方）

昭和
20～30年

中山間地域では農林業を基盤に集落毎に雑貨店
町村には役場・農協・郵便局と醤油屋・鍛冶屋・タバコ屋
など、地方都市に商店街、工場



昭和
40～50年

各地に縫製工場等が進出・下請・孫請など経済活動が活発化
公共工事でインフラが整備されライフスタイルが変化



昭和
50～60年

バブル経済、若者が都市に流出



平成
元～10年

グローバル経済・産業空洞化、工場閉鎖
中心市街地がシャッター街に





平成
10～24年

町の中心にあった役場が無くなり酒店もタバコ屋も消え建設業も廃業、地域に仕事が無くなる

「定年退職して実家に帰ったら青壮年(一番若い)だった！」
教育は大切だが、「大学で勉強したら田舎には帰れない？」
のが現実の社会になってしまった。

荒廃する里地・里山、20年後に村は消滅か

切実な課題

生物多様性の喪失

環境面からも地方の活力維持
安全・安心な社会づくりが必要

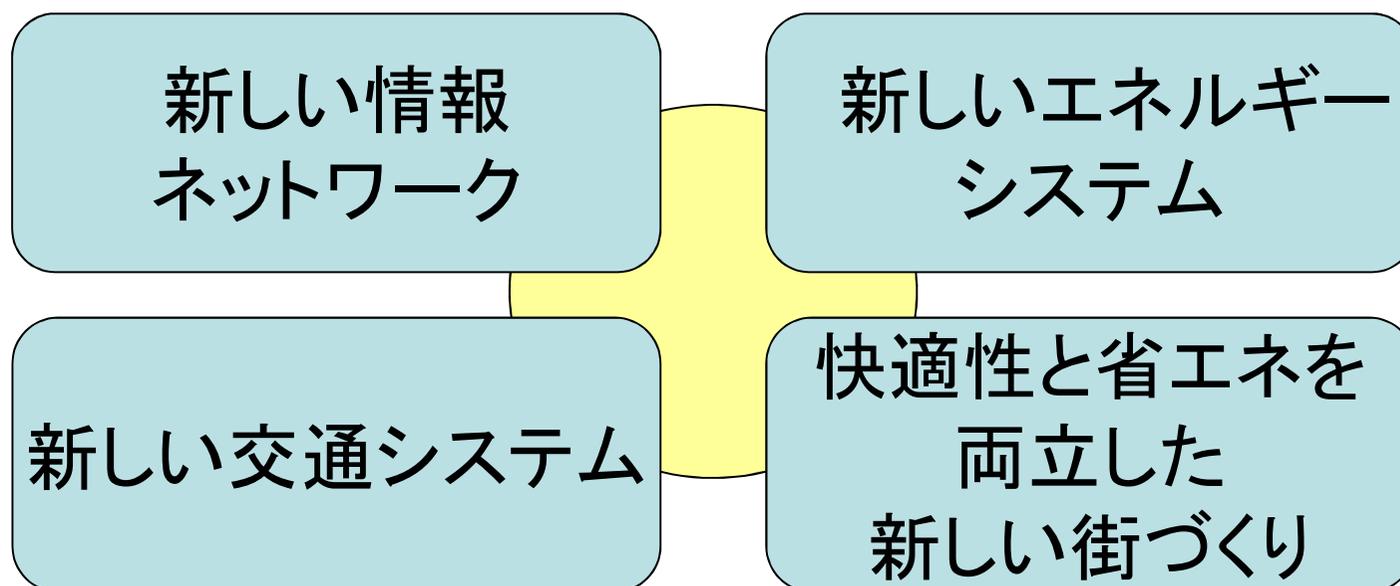
環境カウンセラーとしての社会貢献は？

2. 環境エネルギー政策

2-1 スマートコミュニティの取組み

オバマ大統領が提唱したグリーンニューディール政策
スマートグリッドで注目される

スマートコミュニティは、「**環境配慮型都市**」とも呼ばれ、街全体の電力の有効利用や再生可能エネルギーの活用などを、都市の交通システムや住民のライフスタイル変革まで、複合的に組み合わせた社会システム



現在、岡山市や美咲町など各自治体での取組みが始まっている

2-2 メガソーラの実現

少子高齢化社会・地方の過疎化対策

- 資源・エネルギーの地産地消を提唱
岡山環境カウンセラー協会
地球温暖化対策・地域振興
人材育成・ネットワーク構築など



岩手県議会で講演

(1) 活動の始まり

広大な遊休地や旧柵原鉱山など地域資源を活用した
エネルギーシステム特に(傾斜地直施設)メガソーラーによる
太陽光発電Farmの推進とそれによる中山間地域の復興を提案



福田 良輔氏

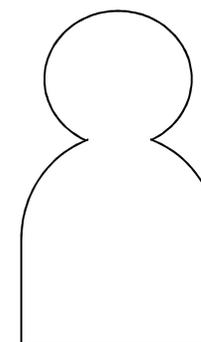
昭和45年東京大学工学部電子工学科卒業
元住友電工常務執行役員
現在、中部大学客員教授 工学博士
平成21年4月岡山県美咲町にIターン定住
地方の現状に危機感を持ち、以来「メガソーラ」
実現と中山間地域復興の発信を続けている
著書「大型太陽光発電Farmの建設と地域の復活について」

(2) 政策の実現に

岡山県議会での提案

数回にわたって議会に提案した結果

知事がメガソーラ誘致の取組みを表明



昭和43年生(44歳)

A氏

新聞記者を経て岡山県議会議員(2期目)

岡山県北出身者として中山間地域の復興
や産学官連携のエネルギー創出団体顧問
として地域再生に尽力している

岡山県新エネルギービジョン策定

平成23年度、新エネルギーによる地域活性化を目指す

- 10ヶ所にメガソーラーを立地

(その後20ヶ所に上方修正)

- 1ヶ所・1MW当たり2000万円

最大1億円を補助

[全国初の施策として注目される]

エネルギー自給の発信をお手伝い



バカ者・若者・よそ者
が問題を解決する。



翌4月にカウンセラー協会
として現地活動

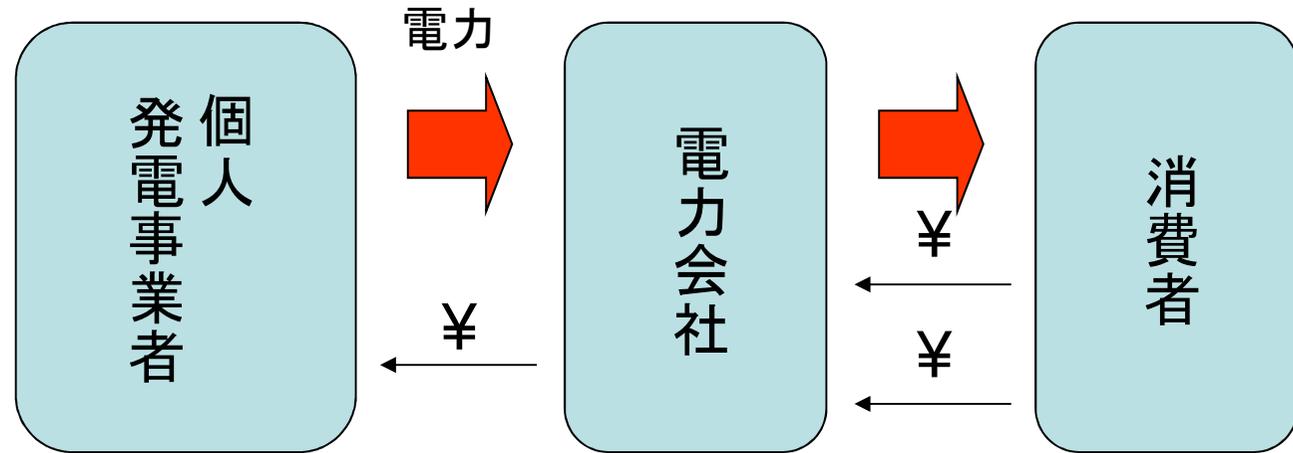
2-3 東日本大震災の発生

平成23年3月11日14時46分三陸沖を震源に
マグニチュード9.0の地震が発生。死者行方不明者
18,879人と東京電力福島第1原子力発電所が
メルトダウンする重大事故が発生。
災害に強い分散自立型のエネルギー対策が
最重要課題となった。



2-4再生エネルギー特別措置法制定

スキーム



買取価格・期間

サーチャージ

太陽光		小水力		バイオマス		
10kW~	~10kW	200kW~1000kW	~200kW	下水汚泥	未利用木材	リサイクル材
42円	42円	30.45円	35.7円	40.95円	33.6円	13.65円
20年	10年	20年	20年	20年	20年	20年

2-5各地にメガソーラーが立地 太陽光発電ブーム



3. 外来種駆除

3-1背景

(1)有害鳥獣の被害

昔からのイノシシ・サルに加えて近年「ヌートリア」が繁殖。最近では岡山県内にもシカやカワウが侵入、多大な農林水産被害が発生している

「ヌートリア」とは

南米原産の哺乳類で頭胴長60cm尾長45cm
体重9kgにも達する大型の齧歯類で年に2・3回
5匹程度を出産、水辺に生息し5分程度潜水できる。
日本へは軍隊の防寒服用の毛皮を採取するため
輸入し飼育された。
稲や野菜の食害や絶滅危惧種ベッコウトンボの
生息地を壊滅させるなど生息系への影響が深刻。



ヌートリア科ヌートリア属

駆除

「鳥獣の保護狩猟の適正化に関する法律」
狩猟免許(わな猟)の取得が条件だった



平成17年 特定外来生物による生態系に係る被害の防止に関する法律

(2) 雇用対策と再犯の防止

プラザ合意後の急激な円高



産業の空洞化



リストラによる多くの失業者

毎年3万人以上が自殺

生活保護費の受給世帯数が
過去最高を更新



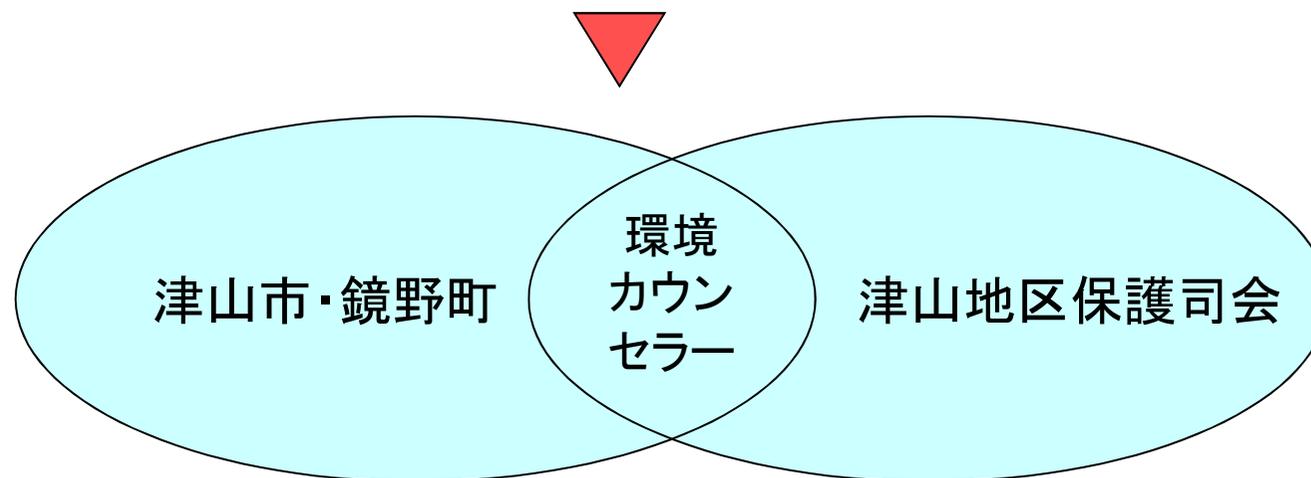
3-2地域の課題と解決策

地域的課題

- 特定外来生物ヌートリアが繁殖し
農業被害多発（津山市・農家）
- 更生保護法人の被保護者（刑務所
出所者や失業中に飲酒運転で罰金
を支払えなかった者等）の就労場所
を確保したい **再犯の防止**（保護司）

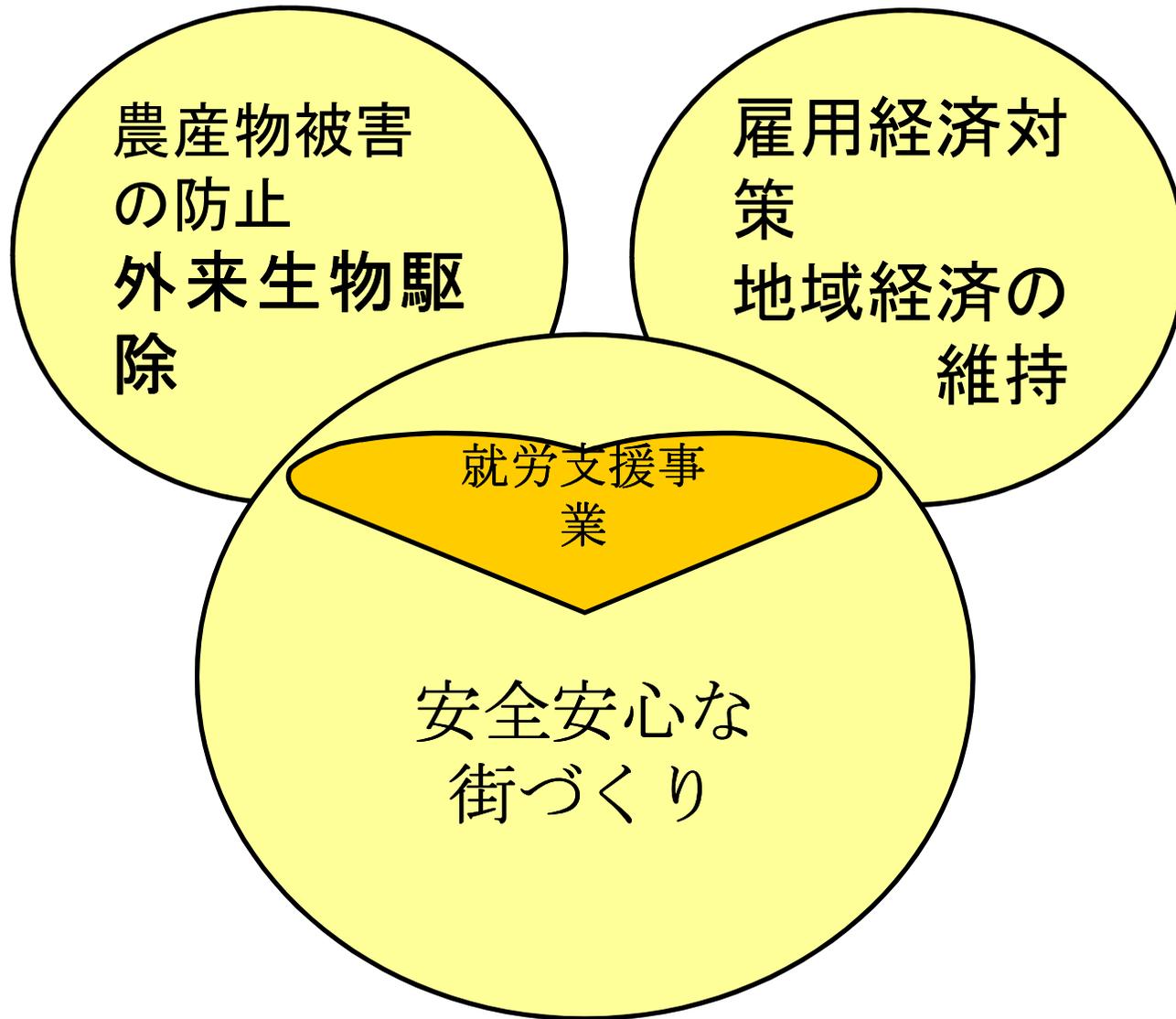


ヌートリア



カウンセラーが繋ぐ

事業のプロデュース



緊急雇用対策事業を活用

全国初の事業(更生保護団体の雇用)実施



法務・環境大臣に報告

作業風景(わなの回収)



津山市長の視察

TV報道



農家の心労が大きい

マスコミも注目（就労支援活動）



NHK TV

みのもんたの朝ズバ（ヌートリア被害）



TBS TV

3-3成果

平成23年度実績

項目	目標	実績
捕獲数	ヌートリア1,000頭以上の捕獲を目指す。	1,448頭
雇用	30名以上の採用	35名

(2) 鏡野町 (23年10月4日～24年3月7日)

項目	目標	実績
捕獲数	ヌートリア250頭以上の捕獲を目指す。	267頭
雇用	3名以上の採用	7名

平成24年度も継続実施中

計1,715頭

4. 望まれる環境ボランティア

まず、自ら働きかけること、活動に参加すること。NPOに頼るのではなく自らがNPOの役に立つこと、NPOの資源を活用する
力量を養うこと。

次に、知識偏重で無く各主体と連絡を図ること。人とひとを繋ぐこと。
そして活動を継続することが大切ではないでしょうか。



緑化を続ける浦島氏



3Rの万波さん



エコネットワーク津山
環境大臣表彰

ご清聴ありがとうございました。